

Muse Letter

No.72
February 2020



アカゲラ

身近に見られるキツツキの仲間
で、頭の後ろ側が赤いのがオス、黒い
のがメスです。主なエサは果実や腐っ
た木の中にある昆虫の幼虫。エサが
いそうな木を見つけ出し、木を激しく
つつき崩してエサを掘り出します。写
真のシラカンバの幹には、木材を腐
らせるツリガネタケというキノコが付
いているので(写真右側)、エサを取
るにはピッタリの木です。

撮影：村越 早織

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse(ギリシャ語)と通信や手紙を意味するLetter(英語)からMuseLetterと名付けました。

札幌付近を通る 植物の境界線



私たちはなぜか「～限定」に弱く、地域限定の食べ物や、そこでしか見られない物を見るために遠くまで出かけることがあります。限定されるには、そこに何らかの区切りや境い目の存在が必要です。例えば、札幌の中央区や南区、豊平区といった10区は人間が地図上に決めた“人工的な”境界線と言えます。自然の中にもさまざまな「境界」があります。よく知られているのは、恐竜の繁栄と絶滅の年代の境界となる地層、K/Pg境界でしょう。この地層は上下の地層に比べて黒い粘土質をしていて、恐竜絶滅の有力説である小惑星衝突の証拠とされています。北海道内でも浦幌町でこの地層が観察でき、こうした目に見える境界線は「線」として実感しやすいものです。

しかし、自然の中には「目に見えない境界線」もあります。北海道の植物についても、いくつかの境界線が提唱されてきました。そして、札幌付近にも「目に見えない境界線」が通っています。例として、どんぐりのなる木であるブナ科について見てみましょう。北海道にあるブナ科はブナ、クリ、コナラ、ミズナラ、カシワの5種類がありますが、全てがどこでも見られるわけではありません。中でも、コナラとクリは札幌を含む石狩低地帯(※)から日高地方より南の地域にしか生えていません。つまり、コナラとクリは北海道でも“地域限定品”です。どこにでもあると思っていたどんぐりだけに、札幌が“お得な”土地に思えませんか？コナラやクリは北海道より南の本州には広く分布し、途切れることなく石狩低地帯～日高地方まで生育しています。石狩低地帯は分

布域の北の端にあたり、こうした地域をその植物の分布の「北限^{ほくげん}」と言います。

なぜ、まるで線で区切ったように生きられる範囲が限定されるのでしょうか。その大きな原因は、植物がその場所で生きていけるかどうかは気候に大きく左右されるためです。北海道の気候は日本海側、太平洋側、釧路や根室など道東地域、旭川や富良野などの内陸部とで異なるので、それぞれの地域に生えている植物が違い、そのため森や草原の景色(植生)も違います。本州の気候に近い石狩低地帯から日高地方にかけての平地に比べて、それより北の地域では気温が低い傾向があります。また、植物側の性質として、コナラやクリはどちらかと言うと暖かい気候を好みます。そのため、コナラやクリは道東や道北では見られません。一方、札幌で見られない種類がブナです。ブナはコナラやクリよりもっと暖かいところが好きなので、北海道の南側、渡島半島までしか生えていません。

このように、自然が作り出す「目に見えない」境い目は私たちにはスケールが大きすぎて実感が湧かないかもしれません。しかし、生き物たちの生息域は長い時間をかけて動いていて、私たちが目にしている「今」の様子は数千年、数万年後には変わって当然です。それを知るときは、地球全体の気候の移り変わりを考えるときも重要な視点になると思います。

※石狩低地帯：日本海側の石狩湾岸から太平洋側の苫小牧周辺までの標高の低い地帯

文／学芸員 山崎 真実

北海道におけるブナ科の分布域

北側ほど種類が少ないです。✕は、そのエリアで見られない種類です。

石狩地方～空知・日高の一部まで
(北海道南西部より南)

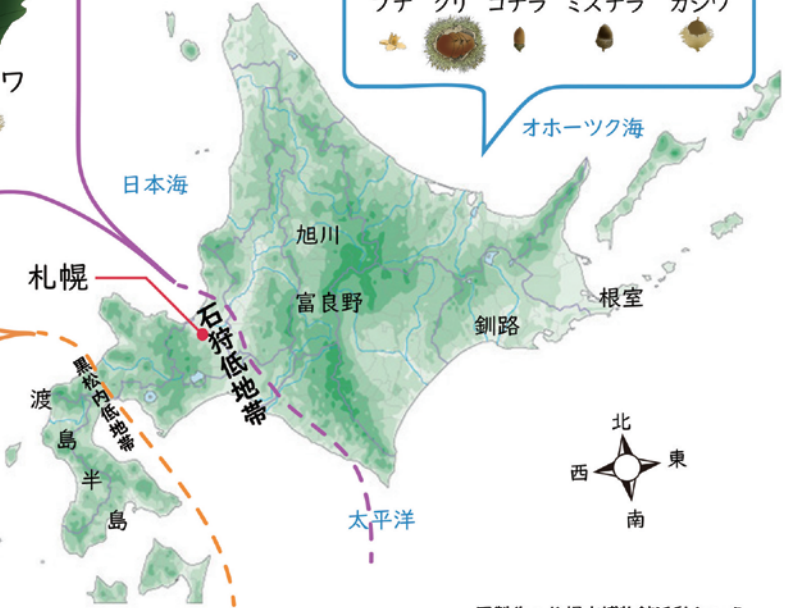
ブナ ✕ クリ コナラ ミズナラ カシワ

より北側の道内

ブナ ✕ クリ ✕ コナラ ✕ ミズナラ カシワ

寿都～長万部まで (渡島半島以南～本州)

ブナ クリ コナラ ミズナラ カシワ



図製作：札幌市博物館活動センター

ホット コラム

展示室につき あなたの声をきかせて

○月×日 展示解説員 村中 光



家族で何度も来館してくれている5歳のゆうたろうくん。ゆうたろうくんは、夏の間、森や公園で自然に触れてくれたり、幼稚園でクワガタを見つけたんだよ、「リスを見たよなどと教えてくれました。動物のフィギュアを持ってきた、「これはセイウチかな？アシカかな？」このシカは何ていう種類のシカ？」と、いっしょに図鑑で調べることがあります。

北海道の冬は長く、外で自然に触れることが少なくなりがちです。しかし、当センターなら、季節や天気に関わらず、札幌の自然について学ぶことができます。昆虫の樹脂封入標本や、扉を開いて見るジオラマ展示が人気です。

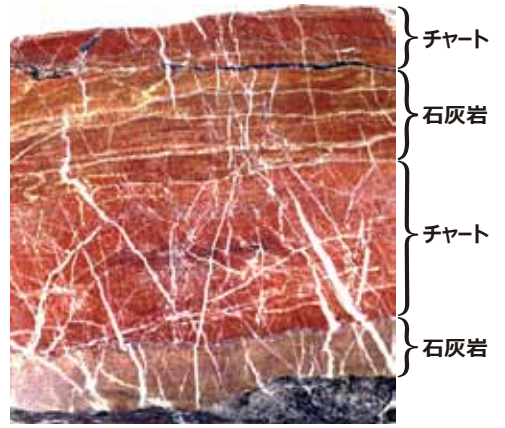
何かに興味を持つきっかけになったり、疑問を解決したいときに思い出したりしてもらえ場所。博物館活動センターが、地域の皆さんにとってそのような場所になるよう、皆さんの声を聞きながら活動していきます。好きなもの、疑問に思ったこと、これからもたくさん聞かせてくださいね。



コレクションクエスト

ふだん公開していない
収蔵物を紹介します。
さあ、標本の世界を冒険だ!

石灰岩はサンゴなどの石灰質の殻をもつ生物、チャートは放散虫などガラス質の殻をもつ生物の遺骸によって形成されます。



「チャート・石灰岩互層」
(三畳紀～ジュラ紀?) SMAC610
チャートは赤が明るく、石灰岩は少し白っぽくなります。

センターに収蔵されている「チャート・石灰岩」はそれぞれが交互に積み重なる(互層)標本で、今からおよそ2億年前に、札幌から遠く離れた太平洋の海底で造られました。石灰岩は水深約4,500mより深い海では形成されにくくなることから、この岩石は、ちょうど水深4,500m付近で形成されたことが分かります。

太平洋プレートによって運ばれ、サッポロカイギュウや小金湯のクジラが泳ぐ海(石狩トラフ)の東側の陸地(現在の新冠町付近)の一部を形成しました。
文・写真/学芸員 古沢 仁

File No.8
ミュージアムでトーク?

SMAC活動レポート

当センターで行われる、市民の自主的活動や、学校との連携など、さまざまな活動を紹介します。

博物館活動センターでは2019年から新しいイベント「ミュージアムトーク」を始めました。きっかけは、講師を務める当センターや他の博物館の学芸員、大学の研究者と、来館される皆さんとの距離をもっと身近にしたいという思いから。すでに参加された方もいらっしゃるでしょうか?

ミュージアムトークは、「講義」というよりは、まるでカフェで楽しむ「会話」の延長線上で、普段なかなか聞けない科学のお話や研究の裏話などを気軽に楽しんでもらえればと考えています(残念ながら、飲み物は出していません)。

2020年もいろいろなテーマで子どもも大人もわくわくする場を提供できるよう、企画を進めています。みんな参加してくれるかな?



写真: 昨年11月は「クジラ」がテーマ
(講師: 群馬県立自然史博物館 木村学芸員)



- 交通アクセス**
- 地下鉄南北線「澄川駅」北出口から徒歩約10分
 - 地下鉄南北線「南平岸駅」東出口から徒歩約14分

札幌市博物館活動センター information

入館料: 無料
開館日: 火曜～土曜 開館時間: 10時～17時
休館日: 日曜・月曜、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



ホームページアクセス
二次元コード



発行 札幌市博物館活動センター

〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6 Tel: 011-374-5002 Fax: 011-374-5014
Email: museum@city.sapporo.jp ホームページ: <http://www.city.sapporo.jp/museum/>



ミュージス・レターは、植物油インキおよび、環境省が定める「グリーン購入法」の適合紙を使用しています。